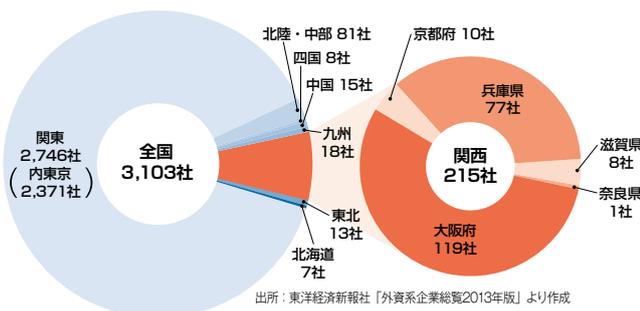
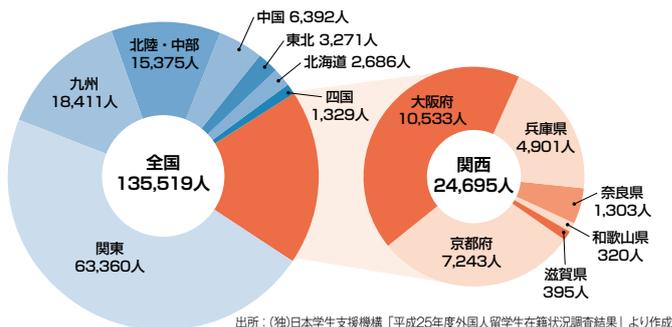


〈図1 外資系企業の本社所在地分布 (2013年3月現在)〉



〈図2 地方別・都道府県別留学生数 (2013年5月1日現在)〉



〈図3 関西への入国外国人数の推移〉



海外から見るKANSAI

関西を「アジア有数のハブ」として位置づけるべく、今年度、関経連では新たに「KANSAIブランドの強化・発信」を重点事業として掲げるなど、取り組みを進めている。一方、海外の方々は、関西に対し、実際にはどのような思いを持っているのか。生の声を交え、経済環境、観光地、留学・就業先、それぞれの観点から、海外から「KANSAI」がいかに受容されているのか、あらためて整理し報告する。

ビジネスの地・KANSAI

アベノミクス効果もあり、また、国際戦略総合特区に加え国家戦略特区の指定も受け、先行きの見通しもいくぶん明るくなってきた関西。海外からの直接投資についても、関西経済に新たな風を吹き込む原動力として積極的な動きが期待される。外資系企業進出の現状を整理する。

■東京一極集中が進む外資系企業進出

2013年3月時点の外資系企業数は、東京では2,371社にのぼる一方、関西*1では215社にとどまる。全国に立地する3,103社中、東京を含め関東への立地は9割近くを占める。関西の府県別では、半数以上の119社が大阪に立地し、兵庫が77社とそれに続く。京都、滋賀、奈良、和歌山の各府県はいずれも10社以下と少ない(図1)。

業種別では、製造業の割合が、全国の22.2%に比べ、関西では36.9%と高い傾向にある。また、親企業の国籍別の内訳を見ると、欧州が45.2%、中でもドイツ企業が15.2%と最も多い。北米が30.4%とそれに続く*2。

■新しい動き—イノベーション拠点への企業進出

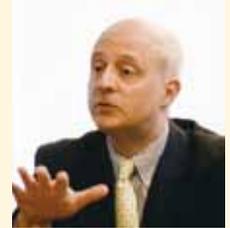
昨年開業したグランフロント大阪のオフィスタワーには、ドイツ資本の製薬大手、バーリンガーインゲルハイムが関西での拠点を開設。また、関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)においても、外資系メーカーが進出を検討している。国家戦略特区への指定もふまえ、関西のイノベーション拠点への外資系企業の注目は徐々に高まりつつある。

*1 以降、注記のある場合をのぞき、「関西」は大阪・京都・兵庫・奈良・和歌山・滋賀の2府4県をさす。

*2 近経局編「関西国際関連情報ファイル2013」2014年3月 ※福井県(2社)を含む

関西の現状—経済団体はこう見る

在日米国商工会議所(ACCJ)関西支部 ビジネス・プログラム委員会委員長、関西外国語大学教授
Stephen A. Zurcher 氏



投資先として優れた条件を持つ関西ですが、東京を中心とする関東圏や東アジアの主な商業圏と比べて、大規模な戦略的投資の誘致に遅れをとっています。その要因の一部に、政府による過剰規制や関西の自治体間での協調不足があることは否めません。

海外の潜在的投資家や観光客は、関西において、過度な規制、都市部に極端に集中した投資政策、限定的な投資機会、生活上の障害などに今なお直面しています。また、関西の自治体は地域全体の利点を生かした全体的な戦略を展開する代わりに、それぞれの地元の経済発展を促進させるために自治体ごとに独立し断片化したアプローチをとっているように思われます。各自治体が共有する資源を最大限に活用し、重複する取り組みは最小限に抑えること、それぞれの地域の個性をまとめて、かつお互いが補完しあえる形で提示する必要があります。

まず、関西を含め、日本の地方への投資の魅力を高めるためにも、政府と行政機関の意思決定権限のさらなる分散化を推奨します。その意味で特区制度には非常に期待が持てます。一方で、ライフサイエンスなど、いくつかの自治体が重複して推進している産業があります。関西の中でさらなる連携をはかることで、限りある投資資源をより効率的に活用できるのではないのでしょうか。また、国土交通省等にも働きかけ、地域内の空港や港湾施設をよりアジア全域に向けた物流拠点として効率的に活用することも必要です。最後に、行政等によるインターナショナルスクールへの助成も強化すべきです。多くの外国人エグゼクティブは、子どもたちの教育環境を重要な判断材料として住む場所を選ぶからです。

ACCJおよびACCJ関西支部メンバーは、関西がより強く、活気に満ち、競争力のある地域になるよう、行政や経済団体等と連携していきたいと考えています。

グローバルなイノベーションと人財を関西からも

ペーリンガーインゲルハイム ジャパン社長
鳥居 正男 氏



私どもペーリンガーインゲルハイムはドイツに本社を置く研究開発主導型の製薬企業です。革新的な医薬品を開発し人々の健康に貢献するという自らの使命を果たすためには、優れた研究開発力を有し続けることが不可欠です。弊社では、ドイツ国内のほか神戸をはじめ世界に5カ所の研究開発拠点を構え、グローバルな研究開発ネットワークを構築し、長期的な視点をもって革新的な医薬品を生み出す努力を続けています。世界の製薬市場で日本は米国に次ぐ市場規模を擁しています。弊社は外資大手製薬企業のなかで唯一日本に研究所を有し、日本市場へのコミットメントを示すとともに、研究開発力に優れた日本の大学や研究機関との共同研究や開発ノウハウの共有をはかっています。

研究所を神戸に定めたのは、関西圏の優れたアカデミアとのネットワークの重要性と、神戸医療産業都市構想に基づく先進的な生命科学研究基盤と先端医療クラス

ターがそこにあり、将来的な発展を期待できることが大きな要因です。そして優秀な研究者と多くの接点を有することは、人財の確保や将来の人財育成においても非常に魅力的です。もちろん、アクセス面で陸・空ともに利便性がよく、日本の本社(東京)や海外の研究拠点との交流に便利であること、神戸市周辺は歴史的にも早くから海外に開けており、国外からの方々を受け入れる環境が整っていることも重要な判断材料でした。また、昨年まちびらきしたグランフロント大阪のナレッジオフィスの一角には、弊社の大坂地域での活動拠点を集約しました。

関西は国際戦略総合特区や国家戦略特区の指定も受けています。こうした、アカデミアをはじめさまざまなネットワークを広く構築し、将来的にイノベーションや新しい価値の創出に大きな期待を感じさせることが今後のますますの発展につながるものと信じています。

観光の地・KANSAI

■世界の潮流の中で見る日本の観光産業

世界中の海外旅行者は、1950年の2,500万人から2013年には10億8,700万人にまで増え、今後2030年には18億人に上ると予測されている。特にアジア太平洋地域を見ると、2013年の各国での受入れ客数は世界の中で最も高い前年比6%の増加を見せており、2014年も同等の増加が期待されている*3。

世界で最も多くの外国人訪問客を受け入れているのは唯一8,000万人を超えているフランスで、アジアの中で10位以内に入っているのは4位の中国(約5,569万人)、10位のタイ(約2,655万人)の2カ国である。日本では2013年、初めて訪日外客数が前年比24%増で1,000万人を突破したが、世界ランキングでは27位と、まだまだ今後の増加が期待される場所である*4,5。

■訪日外客の動向

日本政府観光局(JNTO)によると、2013年に日本を訪れた1,000万人超の外国人のうち、観光目的の旅行者は800万人に迫る。その80%以上がアジアからで、特に韓国と台湾からはそれぞれ約200万人にのぼった*4。また、中国からの観光客も、本年5月には前年同月比103.3%増と、日中間の冷え込みが続くなかでも大幅な増加傾向にある。この理由としては、航空便の増便・新規就航に加え、上海発の大型クルーズ船(8隻)の寄港等が背景にあると考えられる*6。

観光庁が実施した最新の「訪日外国人消費動向調査」では、海外からの旅行者の次のような

動向や意識が明らかになった(表)。

●滞在中の体験、次回したいこと

日本食を食べたり、ショッピングを楽しんだという人の割合が高い。一方、次回やってみようこととしては、温泉入浴をあげた人が最も多かった。

●日本滞在中に役に立った情報

日本に到着した旅行者は、旅行ガイドブックや観光案内所(空港除く)より、はるかにインターネットにより情報を得ている。情報源としては、スマートフォンやパソコンをメインツールとしている人が多く、そのためもあってか、「日本滞在中にあると便利だと思った情報」として無料Wi-Fiをあげた人が非常に多い。また、交通手段に関する情報が少ないとの意見も多く見られた。

■関西のポテンシャル

同調査によると、アンケートに答えた人のうち9割超が訪日旅行に「満足」しており、4割以上が「大変満足」と回答している。さらに、日本への再訪を希望する人も9割を超え、「必ず来たい」とした人も半数以上にのぼっている(図4)。

ここで都道府県別の訪問率(観光・レジャー目的)を見ると、関西では、最も高い大阪でも30.3%、京都で23.0%と、東京の42.7%と比較すると低い。また、関西の他府県については、兵庫が7.9%、奈良が5.8%、和歌山が1.6%、滋賀が0.6%であり、まだ足を運んでいない人も多い。初めて日本を訪れる旅行者だけでなく、再訪を希望する人にとって、関西の各地域は次回訪日時の有力なデスティネーションとなる大きなポテンシャルを有しているといえる。

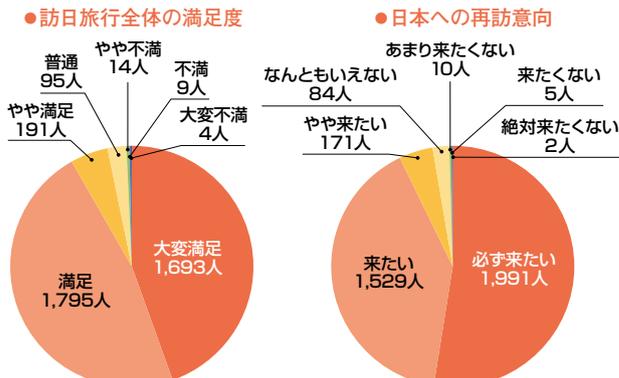
*3 国際連合世界観光機関(UNWTO)「Tourism Highlights」2014 Edition
*4 JNTO「国籍/月別 訪日外客数」「国籍/目的別 訪日外客数」
*5 同「世界各国・地域への外国人訪問者数(2013年 上位40位)」
*6 同「訪日外客数(2014年5月推計値)」(報道発表資料)

〈表 訪日旅行に関する意識【観光・レジャー目的】〉

今回したこと(複数回答) 回答者数: 3,045人			日本滞在中に役に立った旅行情報源(複数回答) 回答者数: 3,116人		
1位	日本食を食べること	91.7%	1位	インターネット(スマートフォン)	51.7%
2位	ショッピング	76.2%	2位	インターネット(パソコン)	31.7%
3位	繁華街の街歩き	62.0%	3位	観光案内所(空港除く)	18.6%
次回したいこと(複数回答) 回答者数: 2,940人			日本滞在中にあると便利だと思った情報(複数回答) 回答者数: 3,007人		
1位	温泉入浴	47.7%	1位	無料Wi-Fi	53.3%
2位	日本食を食べること	47.2%	2位	交通手段	45.5%
3位	ショッピング	42.5%	3位	飲食店	28.6%

出所: 国土交通省観光庁「訪日外国人消費動向調査 平成26年1-3月期」より作成

〈図4 訪日旅行への満足度と再訪意向【観光・レジャー目的】〉



出所: 国土交通省観光庁「訪日外国人消費動向調査 平成26年1-3月期」より作成

KANSAIで観光するならココ！ 在関西外資系エアライン幹部が選ぶおすすめスポット



エア インディア
西日本地区支配人 V. Malini 氏
(ご出身:インド 在関西歴:2年)

■ 来日してからは毎週のように京都を訪れ、奈良や熊野にも行きました。自然と調和している歴史的建造物を見るのが好きです。

■ インド人は食べることが大好きですが、日本で困るのがベジタリアンへの対応。インドには多くのベジタリアンがあり、ベジタリアン向けかどうか、すべての食品にマークが付いています。和食はベジタリアン向け、というイメージがあるかもしれませんが、実際は魚からとっただしや、肉や魚と同じ油で揚げた野菜の天ぷらは口にできません。それから、言葉の問題もありますが、交通機関についての情報がもっとあればよいのに、と思います。どの電車に乗ればどこに行けるのか、わかりにくいことがあります。

■ 四季折々のイベントを楽しめるのが日本の魅力。一方で、京都の「ギオンコーナー」のように、いつでも気軽に日本の伝統文化・芸能に触れることのできる施設は貴重です。そのような場所がさらに増えるといいですね。

私のお気に入り 奈良の長谷寺。今住んでいる神戸の再度山も、好きな場所の一つです。



中国国際航空 大阪支店
支店長 那 偉 氏
(ご出身:北京 在関西歴:3年2カ月)

■ 来日前は、大阪城の名前を聞いたことがあるくらいで、関西についてはよく知りませんでした。この3年の間に、京都や奈良の寺社仏閣や彦根城など、多くの場所を訪れました。

■ 京都と奈良は、中国人観光客にぜひ勧めたい場所です。どちらも、古都の街並みを保ち、また、日本の仏教・神道文化の中心地であり、それを実際に訪れて体感する価値があります。それから、豊臣秀吉が戦国時代の日本を統一した象徴である、大阪城。秀吉は中国では、秦の始皇帝と同じような存在として、身近に感じられるのではないのでしょうか。

■ 祇園祭や天神祭といった伝統的なお祭りにとても魅力を感じます。大人も子どもも伝統的な和服である浴衣を着て、歌ったり踊ったり、とても興味深いですね。外国人にとっては、日本文化を体験できる貴重な機会です。

私のお気に入り 奈良の東大寺。なかでも大仏にはとても惹かれるものがあります。奈良公園は、何度訪れても世界中からの観光客でにぎわっていますね。



大韓航空 大阪旅客支店
支店長 金仲鎬 氏
(ご出身:ソウル 在関西歴:2カ月)

■ 大阪は、日本の中でも最も韓国との関係が親密な場所。韓国人には、大阪城、道頓堀、USJ、大阪ドームが特によく知られています。道頓堀で感じる熱気は、韓国に通じるものがあって、親しみが沸きます。

■ 関西で観光する際、不便なことはまずありません。強いて言えば、韓国では少額でもカード払いが一般的なので、カード決済がもっと普及すれば便利だと思います。また、今や海外から電話をかけることはほとんどなく、SNSでのやり取りが一般的。無料Wi-Fiの整備も進めばよいですね。

■ 韓国人観光客が求めるのは「日本らしさ」を感じる異国の雰囲気。梅田の地下街でスイーツを食べ歩いたり、神戸の旧居留地のおしゃれなカフェでくつろいだり、甲子園で野球を見たり、というのも一つの楽しみ方でしょう。歴史的なつながりの深い日本、朝鮮半島からの渡来人の名残などを見つけ、興味深く感じる人もいます。

私のお気に入り 姫路城。緑の中で白く輝く城は大きなインパクトがあります。



ベトナム航空 大阪支店
支店長 Luu Minh Chung 氏
(ご出身:ベトナム 在関西歴:2年)

■ 来日まで「関西」に対する印象はほとんどありませんでした。関西は名所がコンパクトに集まっていてとても便利です。

■ 阿倍野に住んでおり、阪堺電車が身近にあるのが嬉しいです。ベトナムはあまり鉄道網が発達していないこともあり、弁天町の交通科学博物館も好きな場所の一つでした(この4月に残念ながら閉館してしまいましたが)。先日は子どもと、「神戸アンパンマンこどもミュージアム&モール」に行きました。ベトナムで知られているキャラクターではありませんが、ショップも充実していて楽しめました。

■ ベトナムからの観光客には、歴史を感じる名所でのお花見や紅葉狩りを楽しんでほしいですね。観光の際には、やはり言葉が一番の壁になりますので、レストランでは、多言語表記もしくは写真入りのメニューがあると助かります。ただ、ベトナムからはまだまだ団体ツアーの観光客が多いので、不便を感じる点はあまりないと思われます。

私のお気に入り 工芸品や骨董品に興味があり、休日には天王寺や万博公園で開かれる骨董市を巡ったりもします。

留学生受入れの地・KANSAI

■世界第7位の留学生受入れ国・日本

国際連合教育科学文化機関(UNESCO)によると、2012年時点で、世界では400万人を超える学生が国外に留学している。そのうち、米国(18%)、英国(11%)、フランス(7%)、オーストラリア(6%)、ドイツ(5%)の上位5カ国ではほぼ半数を受け入れており、日本は世界第7位の受入れ国として、約4%の留学生を受け入れている。特に、中国の学生にとって日本は米国に次いで2番めに人気のある留学先であり、留学している中国留学生の約14%を受け入れている*7。

■日本再興戦略実現のための留学生受入れ推進

日本再興戦略の日本産業再興プランにて、政府は「グローバル化等に対応する人材力の強化」のための施策として「優秀な外国人留学生」を「2012年の14万人から2020年までに30万人に倍増させること(『留学生30万人計画』の実現)」をめざすとしている。

2013年5月1日時点の高等教育機関における外国人留学生の総数は135,519人(図5)。出身地別ではアジアからの留学生が91.9%を占め、国別では中国からが約6割、韓国からが1割超と、両国出身の留学生が7割以上を占めている*8。

■関西を選ぶ留学生

日本への留学生のうち、18%にあたる24,695人が関西に留学しており、その多くが大阪、京都、兵庫の3府県で学んでいる(2頁、図2)。

2012年10月から12月にかけて(一財)アジア太平洋研究所(APIR)が関西7大学*9における

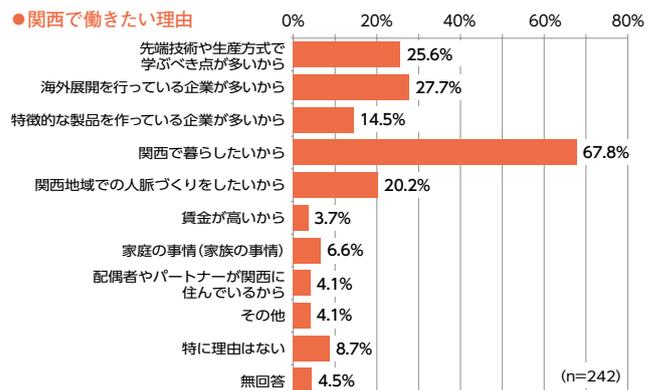
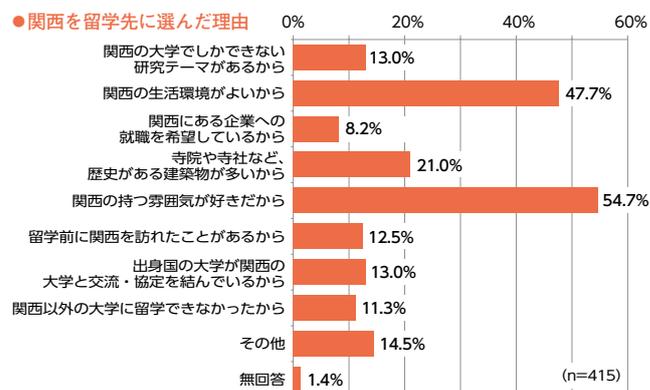
大学および大学院の正規留学生に対し実施したアンケートでは、日本を留学先に選んだ理由として、「先端の専門知識を学ぶことができる」「日本の文化が好きだから」といった項目が上位にあげられている一方、関西を留学先として選んだ理由については、関西の持つ雰囲気や生活環境のよさをあげた留学生が多く見られた(図6)。

同じくAPIRのアンケートによると、約7割の留学生が日本での就職(58.1%)・進学(12.3%)を望んでいる。関西で就職したいと答えた学生も多く、その理由としては「関西で暮らしたいから」が最も大きい(図6)。

2012年に日本の企業等への就職を目的として留学生から在留資格の変更が許可された人数は全国で10,969人であった。就業先企業等の所在地別構成比を見ると、半数近くは東京だが、関西企業にも1,530人が就職し、前年の1,298人から200人以上増加している*10。

*7 UNESCO「Global Flow of Tertiary-Level Students」2014年5月5日
*8 (独)日本学生支援機構「平成25年度外国人留学生在籍状況調査結果」2014年3月25日
*9 京都・大阪・神戸・関西・関西学院・同志社・立命館の7大学
*10 法務省入国管理局広報資料「平成24年における留学生の日本企業等への就職状況について」2013年7月

〈図6 関西の留学生に対するアンケート結果〉



〈図5 高等教育機関在籍の留学生総数の推移〉



出所:(一財)アジア太平洋研究所「『関西地域の投資戦略:高度外国人材の活用による活性化』研究報告書」2013年5月

私たちがKANSAIを選んだ理由 関西で学ぶ外国人留学生による座談会



大阪大学大学院
言語文化研究科博士前期課程2年
Ustuner Gunes (ギユネシ)さん
(ご出身：トルコ)



関西学院大学
国際学部4年
劉 琳 (リン)さん
(ご出身：中国)



関西外国語大学
(交換留学生)
Lorenza Fe Camboanga (エンザ)さん
(ご出身：フィリピン)



龍谷大学
国際文化学部1年
Esther Seng San (エスター)さん
(ご出身：ミャンマー)

★だから関西に来ました！

エンザ：今年の1月から1年間の交換留学生として来日しました。他の大学にも合格していたけど、決め手は奨学金。途上国からの留学生には、奨学金の有無はとても重要です。

エスター：日本語学校で2年間学んで、今年学部に入學しました。地震など自然災害が他地域に比べて少ないという印象があって、京都を選びました。

ギユネシ：学部生の時に東京の大学に留学していました。認知言語学をとおして日本人のユーモアの研究をしているので、“ユーモアの中心”である大阪の大学院への進学を決めました。

リン：一般留学生として入学して4年経ちます。私は大都市が好きなのですが、東京は人が多すぎると思い、関西に留学しようと決めました。

★ユーモアと人情の関西

エンザ：フィリピンにいたときから、マンガやドラマをとおして、関西人はユーモアがあってすぐ親しくなれそう、という印象を持っていました。

リン：関西人はすごく優しい。外国から一人来て心細い時に、電車や街なかで話しかけられると嬉しくなります。

ギユネシ：私も近所の人たちにはとても助けられています。一緒に遠足に出かけたりもしますよ。トルコ人と関西人はフレンドリーなところが似ていると感じます。

エンザ：スーパーでお弁当を買おうとしたら、知らないおばさんに「あと20分待てばタイムセールになるよ!」と教えてもらったこともあります。

エスター：私は大学の入学試験の時に、バスに乗り遅れそうになって。たまたま通りかかった人が車で会場まで送ってくださったんです。結果、無事に合格することができました。自分の国では考えられないことです。危ないので…。

リン：関西は面白い人が多い。関西弁も好きです。

エスター：はじめはとても苦労させられましたけど。

エンザ：みんな母国では標準語で勉強してきているので、なかなか通じないですね。

リン：大学の講義も、はじめは全然わからなくて。でも慣れると、関西弁はかわいい、と思うようになりました。

ギユネシ：自分の気持ちを率直に表現しやすいところがいいです。

★勉強も仕事も、やっぱり関西で！

エスター：関西は奨学金を受けられる大学が多い。家賃や生活費も東京に比べると低い。私の住む京都は大学も多くて、学生を大切にしてくれる街というイメージがあります。

エンザ：日本文化に興味のある人にとっては、ポップカルチャーと伝統文化の両方に触れることができる関西はおすすめです。

ギユネシ：関西は住みやすいし、いろいろなものがそろっている。少し足をのばすだけでいろいろな観光地に行けるのも魅力ですね。私は住み慣れた大阪で、このまま進学・就職したいと思っています。隣人や友人と築いてきた人間関係を大切にしたいです。

リン：感覚的なものなんですけど、関西が本当に好き。私は大阪の企業に絞って就職活動をして、あるメーカーから内定をいただきました。

★日本で働く留学生に求められていること

エンザ：日本企業は留学生に高い日本語能力を求めている。せっかくスキルがあっても言葉の壁があって生かすことができないのはもったいないと思います。

リン：でもそれが現実ですよ。いくらスキルがあっても、社内の人と交流するには日本語が不可欠。言葉の壁を乗り越えなければ日本で仕事をするのは難しいと思います。

海外をターゲットに！ 関西・関経連の取り組み

海外企業に選ばれる関西をめざして

■ 国家戦略特区の推進で呼び込む海外からの力

今年3月に指定を受けた国家戦略特別区域について、関西圏では6月23日に第1回区域会議が開催された。その場で示された「関西圏 国家戦略特別区域計画(素案)」では、関係地方公共団体や関係事業者からの提案などをふまえ、今後、追加に向け検討すべき規制改革事項等として「外国企業等による日本法人の設立・創業人材の受入れ」があげられた。これは、グローバル企業の設立等を支援するため、各種手続き窓口のワンストップ化や申請書の英語対応等について検討すること、また、外国人による起業等を支援するため、投資最低基準(500万円)を引き下げ、法令への記載など透明性を高めるとともに、基準設定や運用を区域会議にゆだねること等により、創業人材の受入れ、留学生の起業・就職を容易に

する新たな仕組みについて検討することを指す。

また、昨年10月に政府により決定された「国家戦略特区における規制改革事項等の検討方針」においては「国際医療拠点における外国医師の診察、外国看護師の業務解禁」が規制改革項目としてあげられている。実現すれば、特区区域内で働く外国人研究者やビジネスマンに対する医療の提供が容易となる。

■ 設立から5年を迎えたINVEST 関西会議

2009年、当会は日本貿易振興機構(ジェトロ)大阪本部、近経局、近畿商工会議所連合会(大商)とともに「INVEST 関西会議」を発足させ、関西広域での外資系企業の進出促進に取り組んでいる。当会は海外に向けて、ライフやグリーン分野における産業集積やアジアとの結びつきの強さなど、関西の魅力の発信に努めている。

ナレッジキャピタルで進む海外との連携

開業から1年がすぎ、うめきたのナレッジキャピタルではさまざまな形で海外連携が進んでいる。
(数字はすべて2014年2月現在)

■ 海外から多数の視察を受入れ

開業以降、約17カ国・地域から44の機関・団体が視察に訪れた。行政・政府機関、大学、学会、大使館・領事館、企業団体など多岐にわたり、そのビジネスモデルや運営方法について、各国から高い関心が寄せられている。

■ 香港企業がサロン会員に

アジア太平洋地域におけるICTのハブ機能として「東洋のシリコンバレー」をめざす複合施設「香港サイバーポート」と連携し、共同事業としてセミナーやマッチングを実施。また、サイバーポートで育ったベンチャー企業でIT技術を使った環境教育プログラムを開発するXNT Limited社がナレッジサロンに入会し、アクティブラボに製品を展示している(~8月末まで)。

■ インターナショナルサロンを開催

各国大使館・領事館とのタイアップや日本で活躍する外国人スピーカーを迎えた英語での交流イベント「インターナショナルサロン」をナレッジサロンで11件開催。

ナレッジキャピタルでは、海外組織、施設、人材との具体的施策による連携や国際マッチングの推進などをとおして、引き続き「国際活動の強化」に取り組んでいく。



香港サイバーポートでの企業マッチング

関西一体でのインバウンド振興に向けて ～「はなやか関西」シンボルマークが決定!～

当会の広域観光研究会では、このほど、関西への誘客のための情報発信ツールの一つとして、地域ブランディングのコア・コンセプトである「はなやか関西」を表現するシンボルマーク(右)を策定した。関西地域(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、福井県、三重県)をPRするシンボルマークとして、当面は主に関西広域のインバウンド観光振興の分野で活用する。

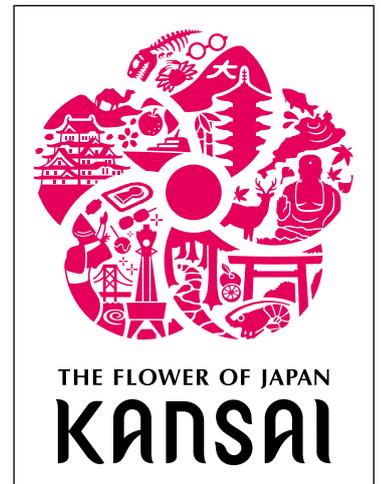
花をモチーフとし、花卉の丸みは関西の親近感や現代的な印象を、中心から弧を描くように広がる花卉のデザインは力強さとしなやかさを表現している。また、花卉には関西10府県の「はなやか」を象徴する要素を、歴史文化・自然・食・産業などの分野から国内外の観光客がイメージしやすいものの中

心に選定し、凝縮した。10府県それぞれの魅力が「はなやか関西」というコンセプトのもとに一つとなり、花開き広がっていきたいという思いを込めている。

キャッチコピー“THE FLOWER OF JAPAN

KANSAI”は、「はなやか関西」を海外の方にも伝わりやすいよう英語で表現したもの。「日本で一番美しい場所」「日本の中でとても華やかな場所」という印象を持っていただけるキャッチコピーとした。

7月24日開催の関西広域連合との意見交換会にて、官民双方でシンボルマークを使うことを合意。今後、関西一体となって積極活用していく。



関西により多くの留学生を ～グローバル人材活用運営協議会の活動～

当会は昨年、留学生の就業支援に取り組んでいる経済団体等、大学、大学コンソーシアム、行政機関とともに、産学官協働による「グローバル人材活用運営協議会」を立ち上げた。

2013年度は「留学生に対する日本語や日本文化の習得促進」として関西企業に就職した留学生OB・OGとの交流会等を、「留学生と企業の出会いの場の提供」として中堅・中小企業見学会等を、また、「留学生と企業のマッチング支援」として就職面接会といったさまざまなイベントを実施。加えて、事業周知のためFacebookページを開設するとともに、公

募により協議会のロゴマーク(右)を決定した。



6月17日には2014年度の定時総会を開催。2013年度の事業活動報告、2014年度の事業計画とともに龍谷大学が新たに構成員として参画することが承認された。それにより協議会の構成員数は21組織となった。

今年度は、新規事業として学部2年生を対象に、経済団体等での留学生のインターンシップを行う。さまざまな企業とかわるなかで、中堅・中小企業の魅力を知る機会を提供し、その後の就職活動に生かしてもらおう。協議会では、今年度も引き続き、関西企業に就職する留学生数の増加に向けて取り組んでいく。

産学交流会を開催

定時総会開催後には、留学生や企業の人事担当者らも出席し、産学交流会を開催した。日立製作所人材統括本部人事勤務本部長の田宮直彦氏より自社での留学生活用方策について講話があった。また、就職活動を終えた外国人留学生2名が活動報告を行った。

引き続き行われた懇親会では、参加者による活発な交流がはかられた。



(企画広報部 小池弥生)